

大切な気持ち

写実描写（具象絵画）の一番のポイントは、「形を正確に描くこと」ではありません。

「モチーフをよく見ること」「見る、観る、視る」です。

見る、「全体を見る」。 **観る、「よく観察する」。** **視る、「穴があくほどじっくり凝視する」。**

そうして描く際に大切なことは、

1. 構図（視点）

2. 明暗（陰影＝光による明暗、色による明暗）

3. 形（フォルム）

これ以外にも、自分がどんな作品に仕上げたいかで、造形的な要素として、

4. 空間（余白） 5. 色彩 6. 質感 7. 空気感 など、大切にしたいことがたくさんあります。

もっと言えば、人物の場合、コスチュームや表情なども重要だったりしますね。

これらは絵画の造形要素です。大学の課題では、これらを表現するためのスキルを日々磨いていきます。でもその前に、最も重要であり、大切にすべきことがあります。

「人はなぜ絵を描くのか？」「君は、私は、なぜ絵を描くのか？」

「モチーフ」とは、「絵画などで創作の動機となった中心的な題材」という意味です。創作の動機！ そう、「描きたい」という気持ちを絵に込める。絵は作者の「心」を映す ということ。

スポーツで「心・技・体」と言われますが、アートでも大変重要なのです。

特に「心」、描きたいと思う心、感動する心、鋭敏な感性。クロッキーもデッサンも風景画もイラストレーションも、「心」がない作品は人の心にも響きません。

受験のためにデッサンをみっちり勉強してきた人は分かるかもしれませんが、受験デッサンでは形の正確さや明暗、質感などの描画力（デッサン力）を伸ばすことだけのために枚数を重ねるといふ大きな落とし穴にはまりがちです。目の前にあるモチーフを見て、自分が何を实感しているか。「ピンの映り込みと反射がきれい！」「縄の質感と金属の質感とティッシュペーパーの質感の違いが面白い」「箱の中に手が入りそうな空間感を出してみよう」など、常に新鮮な発見のウキウキ感を感じながら、それを表現することに夢中になる。そんな創作の喜びに無関心・無感動になって、機械的にスキルを磨く。味気ないですね。

大学の課題や今回の宿題でも同じです。あなたの味が、よ〜くしみ込んだ作品。作者の想いや感動が伝わってくる作品。 **あなたのみずみずしい感性を磨きながら、そんな作品を創り出せると素敵です。**

今回の宿題である、クロッキーや風景写生は、いわゆる習作です。スキルアップのために何枚も積み重ねていく練習です。でも、**名画を生み出した絵描きたちの素描や習作には、生き生きした感動があります。**クロッキーや風景写生を「楽しむ」気持ちで取り組んでくれるとうれしいですね。